

卒業研究		演習	教授 竹内 成生	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの必修科目、スポーツトレーナーコースの必修科目	科目ナンバリング	11130401	

1. テーマ

心理指標と生理指標を用い、スポーツ・健康の生理心理学的評価とその検討をおこなう。

2. ゼミのねらい・概要

我々は日常行動の多くの場面で生理－心理的な制約や影響を受けている。例えば、過緊張場面では視野が狭まり、複雑かつ咄嗟な行動が困難になる。このような生理－心理的な関係性はスポーツ場面において顕著であり、両者の関係性から最適パフォーマンスを発揮するための方法を探ることが可能である。更には競技スポーツだけでなく、健康スポーツに代表される健康行動の解釈や、行動の向上においても生理心理学的な視点は有用である。本ゼミでは生理心理学的研究手法を用い、スポーツや健康に関する理解を深めることをねらいとする。また、問題提起－検査・実験－考察という一連の作業を通じて論理的思考と表現能力、客観的データの見方を養うものとする。尚、テーマ選定は3年次の検討を受け、学生の興味を優先する。

3. ゼミ計画

<p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康と生理心理学の詳説 2. 卒業研究とは1（問題提起と検討手法を主として） 3. 卒業研究テーマ選定とその概要1（学生半数） 4. 卒業研究テーマ選定とその概要2（残り半数） 5. 脳波・心理指標による検討方法1（概説） 6. 脳波・心理指標による検討方法2（データ取得） 7. 脳波・心理指標による検討方法3（データ整理） 8. 脳波・心理指標による検討方法4（統計処理） 9. 脳波・心理指標による検討方法5（解説） 10. 前期進捗紹介・予備実験等1（発表学生5-6名） 11. 前期進捗紹介・予備実験等2（発表学生5-6名） 12. 前期進捗紹介・予備実験等3（発表学生5-6名） 13. 前期進捗紹介・予備実験等4（発表学生5-6名） 14. 卒業研究中間検討会 15. 前期内容の補足と今後の進捗について 	<p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 卒業研究とは2（結果と考察を主として） 17. 卒業研究テーマ方針の最終決定（学生半数） 18. 卒業研究テーマ方針の最終決定（残り半数） 19. 後期進捗紹介・実験等1（発表学生5-6名） 20. 後期進捗紹介・実験等2（発表学生5-6名） 21. 後期進捗紹介・実験等3（発表学生5-6名） 22. 後期進捗紹介・実験等4（発表学生5-6名） 23. 取得データ解説1（基本集計詳説） 24. 取得データ解説2（統計処理詳説） 25. 取得データ解説3（結果の解釈詳説） 26. 後期進捗紹介・結果検討1（発表学生5-6名） 27. 後期進捗紹介・結果検討2（発表学生5-6名） 28. 後期進捗紹介・結果検討3（発表学生5-6名） 29. 後期進捗紹介・結果検討4（発表学生5-6名） 30. 卒業研究全体に関する総評
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

自身の研究テーマに関する文献収集、実験・調査、解析・考察の計画的な実施に加え、卒業論文の作成、研究進捗発表、研究発表会を遂行する。本卒業研究の遂行にあたっては前期・後期を通じて週あたり3時間程度の時間を前提とする。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

研究進捗の口頭発表の際、個別に評価をフィードバックする。また、卒業論文と最終発表会の発表内容を基に評価内容や改善点を個別にフィードバックする。なお、最終評価の通知方法については事前に連絡する。

6. ゼミにおける学修の到達目標

心理学的研究手法によるスポーツや健康に関する理解を深め、3年次の専門ゼミで養った論理的思考と表現能力、客観的なデータの見方を元に研究を遂行、卒業論文としてまとめることを目標とする。なお、年間予定している主な進捗と各時点での検討方法は以下のとおりである。

- ・ 3年次に決定したテーマに関係する実験・調査論文などの紹介と議論をおこなう。

- ・ 3年次に引き続き、予備実験データの取得と解析を通じ、妥当性を検討する。
- ・ 実験・調査の中間報告をおこない、テーマを最終決定する。
- ・ テーマに変更が無い場合はデータの追加、変更・修正の場合はデータの新規取得をする。
- ・ 取得データをもとに議論をおこなう。
- ・ 各自テーマを卒業研究成果物としてまとめる。

7. 成績評価の方法・基準

卒業研究（論文）内容（60%）、卒業研究発表（20%）、授業態度・積極性（20%）を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。しかし、心理学の基本ならびに周辺分野を広く網羅しており、事典・参考書として最適であることから、参考図書として以下の書籍を推奨する。また、無料の統計ツールである JS-Star や R (JASP) に関する理解を深め、具体的処理方法を学ぶことから統計処理の解説本も示しておく。

※鹿取 廣人・杉本 敏夫・鳥居 修晃（編） 心理学（第5版補訂版） 東京大学出版会（ISBN-13: 978-4130121170）

※山崎勝男（監修） スポーツ精神生理学 西村書店（ISBN-13: 978-4890134298）

※清水 優菜・山本 光 JASP で今すぐはじめる統計解析入門 講談社（ISBN-13: 978-4065292945）

9. 受講上の留意事項

スポーツ・健康に関する生理心理学的評価方法を学び、スポーツ・健康活動に関して、今後の糧となるようなテーマを自らが率先して見出すことを期待する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。障害を対象とした研究機関での実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。